

あとがき

二〇二二年四月、『京都造形芸術大学を学ぶ』の第一版を刊行しました。

本学は、さまざまな困難を克服しつつ、毎年、高等教育機関としての新しい課題に挑戦し、先駆的で大胆な実践を展開してきました。自校（史）教育の教材である本書『京都造形芸術大学を学ぶ』の刊行もその一環です。

さて、本書刊行の目的は大別して以下のふたつです。そのひとつは、入学した大学の歴史と現状を学ぶことで、本学への理解を深め学習への意欲を高めることです。もうひとつは、本学の特徴（アイデンティティ）を学ぶことで、他大学との違いに気づき、「入試ランキング（入学難易度・偏差値）」などから距離を置いて大学を見られるようになることです。

その結果として、本学創設以来、現在に至るまで本学にかかわった多くの人々の努力に共感し、みなさんが知的創造や造形芸術活動にかかわる喜びと、京都芸術大学という共同体の一員へ加わることへの、新たな自覚をもってくださることを願って作成したものです。

大学だけでなく、大学を取り巻く社会も大きく変化を続けています。本学の過去・現在の多様な試みの中からさらに新たな課題をみつめて、これからの大学、学問や芸術がめざすべき方向性を見いださなければなりません。これらの課題を追究するにあたっては、たえず本学を構成する学生のみなさんと教職員が一体となって取り組んできました。その過程ではとりわけす

ぐれた知性、若々しい体力、そしてゆたかな感性を持つ学生のみなさんの存在と力が寄与することが大きかったと思います。これからの大学のありかたを共に考えていくために、本書を通じてみなさんと、これまでの本学の足跡を共有してさらに前進していきたいと思います。

本学は、二〇二〇年度には創立三〇周年を迎え、大学名を「京都造形芸術大学」から「京都芸術大学」と改めました。この改名の理由は、二九ページでも述べられたように、本学が創設以来、教職員と学生が一体となり京都の地において、その土壌を活用し、新しい芸術創造と世界にむけた発信の基地としてさらに前進できることを期したものです。若々しいみなさんの息吹とともに本学園は前進します。みなさんの情熱と未来へのあくなき前進の意欲を本学で十二分に生かしてください。

「京都造形芸術大学を学ぶ」編集会議

代表

荒川朱美

生駒俊樹

北村 誠

君野隆久

佐藤博一

丸井栄二

和田英彦

事務局

木村香穂理